

# 一基一会

"Ichigo Ichie" Sociedad de Intercambio Internacional de Go



第 16 号・17 号 (合併号)

## 2019 年度・2020 年度 活動報告



2021

NPO 法人囲碁国際交流の会

# 一碁一会 第16・17号(合併号)

## 目次

### 2019 年度活動報告 ..... 3

つくばね囲碁大会 西島 昭 .....3

第40回世界アマチュア囲碁選手権大会 関口 清 .....4

ホームページのリニューアル 西原口 晃 .....6

KGS ネット囲碁大会(夏の陣) 西原口 晃 .....6

チリの棋友来日歓迎会 粒良 文洋 .....7

東京女子大囲碁部との交流囲碁会 合田 寅彦 .....8

KGS 新春ネット囲碁大会 野々垣 悦宏 .....8

アルゼンチンとの交流試合 西原口 晃 .....10

### 2020 年度活動報告 ..... 12

チリ囲碁連盟との交流試合 西原口 晃 .....12

KGS ネット囲碁大会(夏の陣) 藤石 克朗・野々垣 悦宏 .....13

メキシコとの交流試合 西原口 晃 .....16

KGS 新春ネット囲碁大会 野々垣 悦宏 .....17

### 19・20 年度トピックス ..... 22

チリの積極派青年 西島 昭 .....22

韓国金寅国手杯参加 野々垣 悦宏 .....24

加藤正夫名人の書を寄贈 杉目 正尚.....26

合田-チャ-ゴ往復書簡 合田 寅彦 (翻訳:小島 伸生).....27

## **会員エッセイ：コロナ禍の日常 ..... 31**

最後のBBQ、激動の2020年 杉目 正尚 .....31

コロナで変わった生活スタイル 関口 清 .....33

パンデミックによる趣味的日常の変化 高淵 秀嘉.....33

八十代の挑戦 牧野 駿一 .....36

19・20年度活動記録 .....38

NPO 法人困基国際交流の会 会員名簿 .....40

# 2019 年度活動報告

## つくばね囲碁大会 西島 昭

4月21日の第13回定期総会に引き続き翌日の昼まで恒例の囲碁大会を行った。全国から総勢40名が集まり SIIG 合宿大会が行われた。このうち鄒海石先生を除くプレイヤーは39名で、この中には、6月に松江市で行われる第40回 世界アマチュア囲碁選手権戦にチリ代表として参加するニコラス・シュローテルさん（前チリ囲碁連盟会長）もいた。彼は、囲碁 上達のため事前に来日（3月21日）して阿佐ヶ谷の洪道場で腕を磨いている自主留学生。KGS3dの腕前とのことで SIIG 上位クラスの人と対等格の実力者であった。名峰筑波山の中腹にある国民宿舎つくばねは2日間貸し切りでいつでも対局可能なので嬉しい。このところ温暖快晴が続き、関東では ところにより真夏のような暑さ。今回も遠く北海道、兵庫、大阪、静岡の会員が参加してくれた。対局は持点制によるハンディ戦、あまりハンディを多くしないよう点数順に A,B,C の各組 13名ずつに分け、手空きの1名を不戦勝とし、鄒先生に指導碁を打ってもらった。第1回戦は総会終了後の16時45分ごろから18時半頃まで、2回戦は夕食終了後の20時半頃から行われ、3回戦まで対局してもらった。翌日は朝食終了後の8時半ごろから4回戦と5回戦を対局。今年も各組ごとに、はじめ点数の近い人同士、次に勝者同士あるいは敗者同士など適宜組み合わせを行ってもらい、星のつぶし合いとなるよう対局していただいた。鄒先生の指導碁は、手空きとなった人のほか、その日の本番対局を終わった人から随時受けていただき、翌日昼前まで3面打ちなどで延べ18名が指導していただいた。今回は、先生と秋山さんは急いで東京に行かなければならないということで恒例のワンポイントレッスンは次の機会の楽しみとすることになった。今年の大戦結果は、B組の藤石さんがただ一人5戦全勝で見事な優勝であったが、そのほかは4勝1敗が複数いて、スイス方式で順位を決めた。それでも決着がつかず、高齢者優先という当会のルールで決めた組もあった。



今年の成績優秀者は次の通り。

- A組 優勝 杉目正尚、準優勝 阪本好伸、第3位 畝 邦弘
- B組 優勝 藤石克朗、準優勝 宮田征雄、第3位 粒良文洋
- C組 優勝 佐々木孝司、準優勝 川井正紀、第3位 栗野幸一

今回も合田会長とご家族に碁盤碁石の用意や会場設営など大変お世話になりました。ありがとうございました。

[目次へ](#)

## 第 40 回世界アマチュア囲碁選手権大会 関口 清

第 40 回世界アマチュア囲碁選手権は 6 月 1～5 日の間、松江市の島根県民会館にて開催されました。関口は日本棋院からの依頼により、大会中の英語・スペイン語通訳としてフル参加しました。以下にその概要と感想を報告します。

### 1. 大会概要

参加国と参加選手：59 か国、59 名。

6 月 1 日午前、羽田より選手全員出雲空港経由松江市に到着、松江城等の観光後ホテルにチェックイン。午後に地元囲碁愛好者と参加選手との囲碁対局イベントの開催。

午後 6 時より開会式、レセプションがホテル一畑にて開催された。日本棋院小林覚理事長以下囲碁界の多くの関係者、島根県・松江市の関係者、国際囲碁連盟役員、参加選手、島根県他多数の囲碁関係者等の参加による盛大な会であった。アトラクションも地元の有名な内容盛りだくさんの見ごたえのあるものであった。

6 月 2～5 日の 4 日間、1 日 2 局（午前 1 局、午後 1 局）の計 8 回戦の対戦。6 月 5 日夕方に閉会式・表彰式が行われた。その後上位入賞の 4 選手にドーピング検査の実施。6 月 6 日は足立美術館、出雲大社を訪問後羽田に到着。観光は非常に好評であった。

審判は 3 人、審判長として武宮正樹九段、審判員二人は関西棋院の今村俊也九段、日本棋院棋士で地元にて活躍されている桑本晋平七段が務められた。プロ棋士として、理事長の小林覚九段、大会実行委員長の大淵盛人九段、マイケル・レドモンド九段、神田英九段、宮崎龍太郎七段、小林千寿六段、吉原由香里六段、青葉かおり五段、小松大樹三段等の皆様も参加されていた。

### 2. 大会での対戦結果

上位 8 位は以下の順であった。1 位中国、2 位韓国、3 位中国ホンコン、4 位 U S A, 5 位ハンガリー、6 位カナダ、7 位ウクライナ、8 位日本。

1 位の中国は 8 戦全勝、2 位韓国は 7 勝 1 敗、第 6 回戦での中国・韓国戦が実質の決勝戦でした。中国の半目勝ちでしたが、コウ争いを含む非常な熱戦でした。日本代表は 16 歳の川口つばさ君でしたが、中国、韓国、ホンコンに敗れての 5 勝 3 敗にて残念ながら 8 位となりました。

SIIG に関係のあるスペイン語圏、中南米からの選手の結果は以下の通りです。チリ 30 位；4 勝 4 敗、アルゼンチン 33 位；4 勝 4 敗、ブラジル 43 位；3 勝 5 敗、スペイン 44 位；3 勝 5 敗、コロンビア 46 位；3 勝 5 敗、メキシコ 47 位；3 勝 5 敗、グアテマラ 52 位；3 勝 5 敗。チリ、アルゼンチンの二人の 4 勝 4 敗は善戦といえますが、ラッキーな面もありました。全体的にはまだ中の下のレベルでしょう。2 勝組（トルコ、モンゴル、アゼルバイジャン、ブルガリア、フィリピン、インド等）はさ

らに下のレベルでした。

上位のホンコン（3位）、USA（4位）、カナダ（6位）、シンガポール（9位）中華台北（11位）、ニュージーランド（13位）等は中国、台湾系の人々で、中国語で語り合う仲間でした。

### 3. SIIG としての親善夕食会

西島さんからの依頼もあり6月2日にSIIG主催の歓迎夕食会を地元の居酒屋で開催しました。先方参加者はコロンビア（2名）アルゼンチン、チリ、メキシコ、グアテマラ、スペイン、ブラジルそしてラテンアメリカ担当のロペス理事の9名、日本側は菊本、三島、門脇、田中、関口の5名、計14名での楽しい歓迎夕食会でした。

### 4. ドーピングテスト

今回初めてドーピング検査というものに立会人（Chaperone）という立場で参加しました。これは大会関係者とは別の第三者が行うそうで、通訳という立場は第三者として問題ないとのことで日本棋院から依頼されました。IDTM(International Doping Tests & Management)というストックホルムにある国際組織が今回の担当で、事前に検査官から実施要領の説明を受けました。内容的には尿検査のみ（血液検査は行わない）の立会でしたが結構厳格で、トイレでの採尿にも立ち会いました。私の場合は4位となったUSA代表でしたが採取した90mlの尿は二つの容器に別々に入れられ、ドイツの検査機関に送って検査するそうです。上位入賞者4人がドーピング検査の対象でした。

### 5. 全体の印象

やはり中国、韓国のレベルは高いと感じさせられました。各国代表の中には中国語圏の強い選手が多く、次に欧州勢が続く感じでした。中南米からの代表はまだ中の下の方のランクです。全体的にAI碁の影響が強く早い段階での三三入りや、付けが目立ちました。

松江市は静かで、宿泊した宍道湖湖畔ホテルの眺めも良く、もてなしも最高で参加者は皆喜んでいました。宿泊したホテルの2階には囲碁を打てる大部屋が用意されていましたが、毎日大勢の選手達が酒を飲みながら碁を打ち楽しい時間を持っていました。

その中でも中国語関係の選手は固まって中国語での会話・検討会で、欧州、中南米等の他の選手が入り込めない状況でした。

来年の世界アマ囲碁選手権大会はロシアのウラジオストックでの開催とのことでロシア関係者から簡単な紹介がなされました。

中南米参加者を中心に松江大会の印象を聞きますと日本特有のおもてなしの配慮を感じさせたサイドイベント等も多く、観光も充実しており、楽しい大会であったようです。

私にとっても楽しい充実した日々でした。

[目次へ](#)

## ホームページのリニューアル 西原口 晃

HP のリニューアルを担当することになりました。話しの発端は、SIIG として今後新しい会員の獲得が至上命題であり、SNS など今流行のメディア媒体などを広く駆使して当会の魅力を臨機に外部に発信すべき、との声が一部の会員から上がったことです。初めに検討の対象になったのは Facebook ですが、残念ながら当会ではそれを使用している会員が非常に少ないことから、まず代表的な広報媒体である HP の充実が優先ということになりました。現在の HP は、約 10 年前に作成されたもので、パソコン画面では特に痛痒は感じないのですが、スマホ画面で見ると「文字が小さくなって読みづらい」「それを拡大すると、文字が画面からはみ出して、横にスクロールしないと読めない」という操作上の不便さがありました。また、メンテを外部委託しているために、更新が適切なタイミングでなされず掲載情報が古くなっているとの指摘も受けています。これらの問題点を役員会に諮り、その承認を得てスマホやタブレットの画面にも対応できる HP にリニューアルする作業に着手しました。これから若い会員を獲得する、また当会のミッションである外国人のシンパを増やすという当会の課題を達成するためには、今や彼らの日常の必需品であるスマホ画面からストレスなく SIIG の HP を閲覧できるようにすることが不可欠です。同時にコンテンツの更新も会員自身の手で随時行えるような仕組みにして、情報の鮮度にも留意していきたいと思っています。ご期待下さい。

[目次へ](#)

## KGS ネット囲碁大会(夏の陣) 西原口 晃

第 15 回 SIIG ネット囲碁大会(夏の陣)が、8 月 15 日~24 日の間で滞りなく開催されました。当初、新春ネット大会と同程度の参加者(20 名)を予想して、①ハンディ差を少なくするため段クラスと級クラスに分ける ②短期集中の雰囲気の中で対局実施率を上げるために、大会期間を今までの 2 週間から 10 日間とする、との案を世話人(荻野、野々垣、藤石、西原口)で共有しました。しかし、残念ながら参加者は 12 名と大幅に予想を下回ったため、①は結局、従来どおりの 1 部リーグで実施せざるを得ませんでした。②については、対局実施率(実際対局数/対局可能数)が 77%と前回の新春大会より 15%増加して一応の成果を見ました。大会の結果は以下のとおりでした。優勝者は甲地さん(なんと、圧巻の 10 戦全勝です)。最多対局賞は全参加者と対戦された高淵さんと佐藤(亜)さんでした。健闘をたたえる賞品(甲州ぶどう)は、別途、今回の代表世話人である荻野副会長から送られます。最後に、SIIG の会員約 70 名強の中で、今回の参加人数は少し物足りない気がします。せっかく、普段顔合わせることの少ない遠隔地の会員との親睦と自分の棋力向上に役立つ手軽な機会とインフラがあるのですから、次回はもっと沢山の参加者を期待してやみません。

甲地 務さんから一言 「不調の中からの優勝」

実は、私ごとで恐縮ですが、昨年末から体調が不調で、また、目も緑内障と白内障と診断されました。それで、目の疲れもあり、しばらくネット碁も休みました。地域の碁の成績もよくありません。この

大会もあることだしと、ネット碁に復帰しましたが大会近くまで8月は2勝しかできず2 dから1 kまで落ちました。酷いもので、内容も圧倒的有利の碁を3回ヨセでひっくりかえされました。不調の時はこんなものです、その後、復調しつつ1 dにまで戻りました。対局結果は良かったですが、内容を検討すると4勝2敗4不明というのが実際です。途中から2 dになってもさっぱりです。特に野々垣様との碁は何度か逆転される手がありましたが、お互い気づかずでした。前回の時の方が内容は良かったです。対局者のみなさんも不調の時は見えない時もあると思います。最後になりますが、今大会の運営にご尽力を戴いた皆様に感謝とお礼申し上げます。

[目次へ](#)

## チリの棋友来日歓迎会 粒良 文洋

9月14日土曜日の朝、未知の人から突然のメール。フランシスコ・ゴンザレスというチリ人で、韓国で行われた韓国首相杯国際囲碁選手権戦のチリ代表として参加し、帰路の途中、木曜から月曜まで日本に立ち寄ったとのこと。

来日できるかどうか不明だったので事前に知らせなかったが、できるならばどこかの日にご一緒できないかというのであわててSIIGの何人かに連絡し、都合をつけてくださった西島さんとともに15日の午後3時に新宿で落ち合った。

フランシスコはサンティアゴ在住の数学教師で30歳、現在のチリ囲碁連盟理事である。東京は初めてで、すべて素晴らしいと言う。ひとしきり話を聞いた後、「どこかを見に行くか、それとも碁を打つか？」と尋ねると「打とう！」となり、碁会所『秀策』で西島さんと私、それぞれ1局ずつ対戦した。彼はKGS 3kyuで、2局ともSIIG側の勝利となったが、着実なしっかりした打ちぶりであった。

碁会所を出て歌舞伎町のすし店で歓迎の宴。魚介類はすべて好きだと言う。チリ人はカキ、ホタテ、ウニ、エビ、イカなど何でもよく食べる。酒はまったく駄目で、日本茶を飲みながらよく食べた。飲まない客人を措いてすっかりできあがったホスト役二人とともに喧騒の夜の歌舞伎町を抜けて、ホテルへと帰っていった。

[目次へ](#)



## 東京女子大囲碁部との交流囲碁会 合田 寅彦

12月8日、池袋の「石心」で女子大囲碁部との交歓碁会をもちました。合田の要請文では囲碁部の学生に「教えを請う」含みを持たせたのですが、来てくれたメンバーは初段以下級位者ばかり。それも東京女子大2名とお茶の水女子大2名の計4名。1年生3人とお茶大の3年生ひとり。この女性は池袋の中園清三さんの囲碁クラブでアルバイトをしている由。恐らく上級生は都合がつかず、このような結果になったようですが、もう一つ大学の事情としてはどちらの大学も3年ほど前に一度部員がいなくなったような時期があったらしい。私たちのメンバーは進さん、谷宮さん、西原口さん、西島さん、粒良さん、山下さん、柘山さん、畝さんに合田。年配の進さんや谷宮さんなどは恐らく大学囲碁部の強カメンバーと充分渡り合う気概をもって遠路おいでくださったと思うのです。呼びかけた私としてはそれが叶わず申し訳ない気持ちでいるのですが、親切に指導碁を打ってくださって、ありがたい思いであります。対局が引けてから、いつもの飲み屋の「清龍」に。未成年者を酒場に誘うことに若干躊躇したものの、彼女達も承諾してくれたので、アルコール抜きで一緒に楽しんでもらいました。東女とお茶女が緊密だということがわかって、別な構想も考えられなくもないとの思いもあります。結果的に孫のような人を相手にしたのですが、私の狙いは女子大囲碁部のOGを私たちの会に何とか引き込もうというものです。さすがに年寄りばかりのわが会も元気がでるといふもの。しかも彼女らOGは企業や公務員などの社会で仕事をしている人である可能性が高いので、わが会に入れば強力なメンバーになるのではないかと。西島さん、今後のコンタクトの方、よろしくお願いいたします。



女子大生4名と対局

[目次へ](#)

## KGS 新春ネット囲碁大会 野々垣 悦宏

2020年の新春囲碁大会は1月16日～25日の10日間の日程で開催されました。今回の大会は、SIIG公式行事のチリ訪問が1月中旬から予定されていたため、開催日程が定まっておりましたが、政情不安の影響で残念ながらチリ訪問が大幅延期となってしまったことで急遽開催が決まりました。短期間の参加募集でしたが、大会の参加者は17名、総対局数は74局となり、昨年のネット大会夏の陣の12名、51局からそれぞれ40%あまり増加しました。

結果は下記の通りでした。

優勝(10勝)：野々垣、 2位(7勝)：平岡、 3位(6勝)：阪本、山下、佐藤

最多対局(14局)：平岡、 2位(13局)：阪本、 3位(12局)：山下

今大会から優勝者や最多対局者への賞品贈呈が諸般の理由により取りやめたことで参加のモチベーションが下がることが心配されましたが、多くの皆さんが参加されました。また、大会期間中に多くの海外の碁友（特にチリの皆さん）が KGS に入室して交流対局が行われました。このことは多数の大会参加者の皆様から好評をいただきました。チリの碁友との仲立ちをしてくださった阪本さん、粒良さんに御礼申し上げます。

次回ネット大会の夏の陣においては、さらに参加者を増やすべく工夫を凝らしていきたいと思いますので、皆様から自由なご意見をいただければ、検討していきたいと思います。

最後に今回の大会を盛り上げていただいた参加者の皆様に感謝いたします。

以下は優勝者、最多対局者からの言葉です。

#### ☆優勝について 野々垣 悦宏

今回の大会で優勝できましたこと、望外の結果でありました。今大会は大会世話人の一人として星取表のまとめを藤石さんと共に担当致しました。チリの碁友の参加の手配などもあり、10日間の大会期間中はネット大会に集中することとなりました。その結果として、常に集中した状態で対局に臨めたことが良い結果に結びついたのかと思っております。

勝利できた中でも半目勝、1.5目勝、4.5目勝など、終局後のKGSの判定で初めて勝ったことが分かるという幸運が重なりました。今回の大会は多くの参加者が打ち分け（五分五分）に近い成績でしたので、幸運に恵まれたことが優勝の要因になったものと思います。

KGSのシステムで手合割が決まるため、本来星が偏ることは少ないと思いますので、運が味方してくれた結果と思っております。

また、優勝の賞品が今大会から無くなったことも無心に対局に集中できた要因かもしれません。優勝してみると賞品がないのはちょっぴり残念でしたが・・・

次回の夏の陣については、さらに多くの参加者の皆さんと対局するのを楽しみにしております。是非とも今回未参加の皆さんが次回から参加されるようお願いいたします。

本大会参加の皆様、どうもありがとうございました。

#### ☆最多対局賞をいただいて 平岡 勝男

ネット大会は毎回楽しみに欠かさずに参加しております。年初からSIIG月例会を初め、市ヶ谷や地元（白山）での碁会に参加しましたが、連敗続きで棋力が落ちたのではないかと心配しておりました。この大会でも初戦の甲地さんを皮切りに5連敗と出だしてつまずき、どうなることかと不安なスタートでした。とにかく対局数をこなすように心掛けて打ち続けました。結果的に「KGS新春

囲碁大会最多対局賞」をいただくことができました。成績は大会後半にかけて持ち直し、7勝7敗となり、その内に半目負けが2局あり、自分としては満足のいくものでした。

[目次へ](#)

## アルゼンチンとの交流試合 西原口 晃

1月中旬に、アルゼンチン囲碁連盟に属すると称するグループから親善試合の申し込みがHPのアドレスを通じて来ました。

このグループは、去年の夏頃に発足した Gender Equity (男女同権、マイノリティー支援) を掲げる女性だけのグループで、初めはその真意に疑問を持ちましたが、調べてみるとメキシコやチリの SIIG の碁友とも交流があり、純粹にネット碁の相手を探していることが伺えましたので、他の役員方とも相談した結果、月例会の中で“お相手する”(本グループの最高段級位は1kで、他は6k以下が多かったので) ことに決定しました。

実際に先方から9人のメンバー表が送られてくると、世界アマの代表であるアギラール氏が名を連ね、また女性は2人くらいしか見当たらず、「お相手」からにわかに「対抗戦」の様相を呈してきたのに少し戸惑いました。

ともあれ、早速9人の会員の方に連絡し、所定の時刻からの対戦をお願いしました。以下、参加していただいた SIIG 側の各氏の短評を記します。(抄録)

### ◆野々垣 : 対 Fernando Aguilar(7d)

碁の内容はひどいもので、大勢の観戦者の皆様の前でお恥ずかしい出来でした。

Aguilar さんは早見えで、要所以外は早打ちでそのペースにも巻き込まれました。

投了後も初手から丁寧に、チャットで検討をしてくれました。もう1度挑戦したいです。

### ◆杉目 : 対 David Pollitzer(1k)

2d とあったので、対局時 1K と出てきたので、ちょっとびっくり。

David 君と打ちました。私の6目半負け。

### ◆藤石 : 対 Santiago Laplagne(1d), 対 David Pollitzer (2局目)

2人とも棋力は私と同じくらいで、変化に富んだ楽しい碁になりました。(1勝1敗)

棋風は、ともにバランスが良く、よく勉強しているなという印象を受けました。

局後の検討で、moyo (模様)、hurikawari(振り替り)の言葉が出てきて、驚きました。

### ◆西原口 : 対 Agostina Romero(1d), 対 Santiago Laplagne(1d)

初戦の相手は今回の親善試合の申し込み者。序盤はまだ甘い所がありましたが、中盤の読みには鋭いものがあり無様にも私の大石が頓死させられました。彼女はまだ碁歴が5年ちょっとだそうです。将来の女性版 Aguilar の予感。局後の検討戦でも良く質問してきて、碁に対する熱心な姿勢が伝わってきました。

2局目の相手は、碁歴 21 年で、今度は運よく大石を仕留めることができました。

#### ◆粒良 : 対 Gissela Gastin(1k)

結果は私の6目半勝ちでしたが、力強い良い碁でした。強気の碁で、ちょっと打ち過ぎ ではなくとも思われるところもありましたが、よく見てよく読んでいました。長考の多い私よりも時間を使って私よりも先に秒読みになり、双方秒読み残り1回になり終局まで2時間くらいかかる私好みの碁になりました。対局するに不足ない相手でした。

#### ◆窪田 : 対 Haroldo Brown(2k)

2子での対局でした。私のダイレクト三々に対して、相手もお返しのダイレクト三々を打ってくるといふ今風の布石で始まりましたが、最後は何とか上手の面目を保つことができました。Brown (69 歳) さんは昨年の金沢でのジャパン碁コンGRESSに参加したとのことで、アルゼンチンには裕福で親日派の年配者がいるみたいです。

#### ◆高淵 : 対 Felisinando Kachuk(5k)

相手の都合で、2時間遅れて対局開始。

10 時と言えば私にとっては、いつもの晩酌後のそろそろ就寝時の対戦。複雑な攻防は意識的に避けて、模様作戦に出ました。途中までは楽勝と思われましたが、やはり酔いのせいかな本来の実力か、大石を召し取られました。それでも必死のヨセで頑張ったが及ばず、結局 10.5 目の負け。Kachuk さんは、moyo (模様) などという術語や序盤の定石も良く勉強されています。実直な碁ですが、将来きっと伸びる方と思います。

#### ◆山下 : 対 Lisandro laffar(7k ?)

相手の級位が 7k ということでしたが、盤上での棋力は? のみでしたので、置石を設定する方法が分からず、結局、互先 6 目半・私の黒番でスタートしました。始まってみると、私の方に安易な手が多かったのですが、競り合いの連続で中盤に入ったところで黒の大石が追い立てられ、損を重ねましたが最後は相手のミスで命拾い、何とか私の中押し勝ち。正確に打たれればジエンドでした。非常に力強いと思いました。置碁では最初からかなり厳しくなっていたでしょう。全体を見る目が少し備われれば勝率が上がるでしょう。

#### ◆藤石直子 (克朗氏の奥様) : 対 Jose Viviano(16k)

少し緊張したようですが、初めてのネット対局と海外の人との対戦を経験出来て、楽しかったようです。傍目で見ると、途中まではいい勝負をしている印象で、ちょうど良い相手になったのではと思います。(藤石克朗氏の談)

SIIG の部屋の画面が各人の対戦状況で一杯になっているさまは、これぞ国際交流と思わせる壮観でした。アルゼンチンには、SIIG として 2011 年に訪問したことがありましたが、同時期に訪問したチリと比べて対応がイマイチだったこともあり、以来、疎遠になっていると伺っています。今回の KGS での対戦を契機に、今後交流を活発化していきたいと思っています。

[目次へ](#)

# 2020 年度活動報告

## チリ囲碁連盟との交流試合 西原口 晃

私たち SIIG は今年(2020 年) 1 月にチリへの交流訪問を計画していましたが、昨年秋の同国の公共料金値上げに端を発した政情不安定のため中止となったのはご存じのことと思います。 そのためのリカバリーも兼ねて、今回の親善試合を計画しました。 月例会当日の 2020 年 5 月 17 日午前 9 時(チリ時間: 16 日午後 8 時) から、KGS 内の Sala de SIIG de Japón に集まり、お互い 10 名ずつの対抗戦(ハンディ戦)を行いました。

先方の参加者リスト(下表参照)には、西島さんのキューバ時代の教え子のカルロス(No1,3d)、10 年前に茨城県石岡市の合田家で 3 か月間囲碁留学していたオズワルド(No3,1k)、チリ囲碁連盟の会長で高瀬さんと以前から親交のあるピーニャ氏(No6,3k)、3 年前にペア碁選手権で来日したクラウディア(No9,6k)と、私たちに顔なじみの方も多くいました。また、今年 5 月の世界女子アマ大会で来日予定だったレナーテ(No5,1k)は、覚え始めてわずか 4 年で 1k というレベルで今後のチリ囲碁連盟の有望株のようでした。

結果は、6 勝 4 敗とかなり SIIG 側の勝利でしたが、熱戦も多く繰り広げられ、また対局の最中に西語でのチャットなどで相手とのコミュニケーションを図ることができ楽しい時間を過ごせたとの参加者の声もあり、有意義な交流であったと思っています。

今回の親善試合の初めの交渉窓口であったカール・シュローテル氏(前チリ囲碁連盟会長で昨年の世界アマ大会に参加のため来日、約 3 か月滞在)も、チームとは別にずっと SIIG の部屋に入室し、各試合を観戦しながら番外で阪本さんや西島さんと久しぶりの対局を楽しんでいました。

こうして、さまざまな場面で知り合った外国の棋友とネットを通じて旧交を温められるのは、“手談”の醍醐味でしょう。今回気がついたことは、関係者以外に幾人かの外国人が「SIIG の部屋」に入室し観戦していたことでした。おそらく、画面一杯に繰り広げられている公開試合の様子に興味を持たれたのでしょう。中には当事者が対局中なのに、チャットに割り込み着手に口出ししてきた不心得者もいてビックリしました。これも賑わいの成せるわざと前向きに捉え、KGS の中で SIIG の部屋の認知度が上がり、そうした外国の方との自由な対局の場になればと思っています。

最後に、チリ囲碁連盟と言っても、少ない会員の中で自ら人数集めに尽力してくれた会長のピーニャ氏に感謝を申し上げるとともに、年内での再試合を約束しましたので、こうしたイベントに興味のある方は世話人までご連絡下さい。

## 対戦リスト（選手名、KGS ニックネーム、段級位）

（チリ側）

（日本側）

1 Carlos Perez Palacios <i>Ca7p</i> 3d	Yoshihiro Nonogaki <i>Backy3</i> 3d
2 Ignacio Iglesias <i>rayheart</i> 2d	Yoshinobu Sakamoto <i>yoshi0428</i> 2d
3 Osvaldo Moreno <i>draggon</i> 1k	Akira Nishijima <i>yumicon</i> 2d
4 Luis Valdebenito <i>Wallcross</i> 1k	Takehiko Yagui <i>wcgofreak</i> 2d
5 Renate Reisenegger <i>Tatesin</i> 1k	Katsuro Fujiishi <i>carloskf</i> 1d
6 Miguel Muños Piña <i>Istaris</i> 3k	Akira Nishiharaguchi <i>harimao</i> 1d
7 Francisco Gonzales <i>kamelo</i> 3k	Mitsuya Kubota <i>kubota5</i> 1d
8 Jorge Perez Jamett <i>Jametto</i> 5k	Katsuo Hiraoka <i>katsuhira</i> 1k
9 Claudia Coronado <i>clachalote</i> 6k	Takashi Yamashita <i>tyamash</i> 1k
10 Juan Jilberto Ureta <i>juanureta3</i> 18k	Hideyoshi Takabuchi <i>kakegawan</i> 3k

[目次へ](#)

## KGS ネット囲碁大会（夏の陣） 藤石 克朗・野々垣 悦宏

第 17 回 SIIG ネット囲碁大会（夏の陣）が 8 月 13 日から 22 日までの 10 日間にわたり開催されました。対局は囲碁対局ネットの一つである KGS にて行われ、参加者は 19 名を数えました。酷暑の中でありましたが、参加者の皆さんは精力的に対局され、対局数は 118 局で総当たりリーグの消化率は 69%と高いレベルとなりました。

結果は次の通りです。優勝 羽山定克さん（4 d）15 勝 3 敗、準優勝 門脇宏幸さん（5 d）10 勝 3 敗、最多対局賞 高淵秀嘉さん（3 k）17 局、勝ち数の次点は阪本好伸さん（2 d）9 勝 6 敗、最多対局の次点は佐藤亜季夫さん（3 k）16 局、でした。

今大会から復活した賞品を目指して、連日午前中から夜半まで熱戦が繰り広げられました。仕事や体調、家庭状況など参加者それぞれの事情は様々ありましたが、皆さん可能なかぎり対局に臨んでいただきました。また、優勝を目指して頑張った方ばかりでなく、多くの碁友との久しぶり、あるいは初めての対局を楽しむ方も多数あり、有意義な大会となりました。大会の初めには対局設定のミスや終局処理のミスが数件みられましたが、それぞれ対局者間で紳士的に処理いただき、トラブルなく解決しました。本大会が懇親を目的とするという精神をご理解いただいた結果と思われる。今回の大会に参加された方のランクは 5 d～5 k の幅でした。特に 3 k や 5 k の方々が積極的に対局を促進され、大会を盛り上げる役割を担っていただいたことに感謝したいと思います。

次回のネット大会は来年 1 月が予定されております。まだネット大会に参加したことがない方も次回は是非参加してみたいと思います。対局時にはチャットであいさつや、局後には検討もできます。また対局のアポイントをメールで行うなどで、初めての人との会話が進むなどの効果も

あります。一般のネット対局でたまにあるような不快な経験ありません。棋力が低いので尻込みされている方や、ネット碁のやり方が分からない方なども、サポートしたいと思います。もちろん女性の参加は大歓迎です。まだまだ囲碁会や碁会所での対局が敬遠されるこの頃です。ネット碁に慣れれば、楽しい囲碁ライフが訪れること請け合いです。優勝・準優勝・最多対局賞のお三方と、熱心に大会を進めてくださった数人の方からコメントをいただきましたので、以下に掲げます。大会参加の皆さま、運営にご協力いただきまして大変ありがとうございました。無事大会を終えることができ感謝いたします。次回もよろしくお願いいたします。

#### ◆謝辞 羽山 定克

私と SIIG とのお付き合いは、北大の先輩合田さんのお誘いで 2015 年、つくばね囲碁大会に参加したことに始まります。以来、同年の因島大会、2016 年モンゴル訪問、2017 年キューバ訪問、2016 年・17 年の対メキシコ・ネット対抗戦、2 度にわたる日本福祉協会との交流戦、2019 年ネット新春大会などに参加してまいりました。したがって、今回大会もお馴染みの懐かしい方々のお名前を拝見し、嬉しく参戦させていただくこととした次第です。実は昨年新春大会で、やはり 3d で 13 勝 6 敗ながら、入賞を逃しました。そこで、今回は作戦を立てました。(1)優勝候補ターゲットを現役県代表の門脇さんに絞り、できれば 2 段差ハンディ 2 子のタイミングで対戦したい、(2)都合で参加が飛び飛びになる門脇さんより、勝ち星は常に先行したい、(3)親睦のため参加の皆さん全員と対戦し、あわせて局数で勝ち星チャンスを広げたい、(4)最終的にランク 4d への昇段を実現したい、というものです。ところが、大会が始まって初日、私が 1 戦目で他の方に勝って 2d[?] から 3d に上 がってしまい、2 戦目で門脇 4d と先で打つ破目となって早速 1 敗を喫しました。スタート早々からもろくも目論見(1)が外れてしまった訳です。また、大会 4 日目には門脇さんは 1 日で 4 連勝し、ランク 5d に上がって底力を見せつけます。しかし、この時点で門脇 5d の 8 勝に対し、私は 11 勝とまだ勝ち数は先行していました。ところが、予想しなかった強敵が行く手に立ちふさがります。世話役の野々垣 4d です。私が 4d に上がったところで互先の白番で野々垣さんと打つ破目となり、黒番の作戦ばかり考えていた私は手痛い敗北を喫し、あえなく 3d に転落します。これはピンチです。私でさえ大会 2 日目に 1 日で 5 勝を挙げたくらいですから、最終日にまた登場する門脇さんなら 1 日で 6 連勝くらいしかねない。そこで私は作戦(3)に取り掛かります。すなわち、メールとチャットによる皆様への「対局お願い作戦」です。これに皆様が快く応じてくれました。最も嬉しかったことは、湯浅さんが私の求めに応じていただいた上、ご本人に予想以上の善戦をされて大変意義があったと喜んでいただけたことでした。この結果、私は 21 日までに 15 勝を挙げて、最終日を迎えることとなりました。そして、既に私に勝利していた野々垣 4d、藤石 1d のお二人が、あろうことか揃って門脇さんにも勝ち、ここで私の優勝が確定したのです。世話役としては誠に不偏公平(?)の働きであって、立派なことこの上ない大活躍です。このことを含めて、結果として参加の皆さんが全員で私を応援してくれた かのよな展開となったのです。誠に幸運としか言いようのない成り行きでした。また、途中経過で正確な結果申告をしていただいた窪田さん、ご家族の遠

方通院付き添いをされていた西島さんの最終日前日の応戦など、感謝してなお余りある方々に恵まれました。お陰様で念願の優勝、参加 18 名全員の方々との交流、首の皮 1 枚 ながらも 4d への昇格を果たすことができました。高血圧と腎臓病と心筋梗塞予後を抱えながら、最後まで何とか頑張り通しましたのも、ひとえに皆様のお力添えあつてのことでした。負けた碁も勝った碁も、18 局ひとつひとつに思い入れがあり、私にとって貴重な財産となりました。皆様に心から感謝を申し上げる次第です。最後に、世話役の皆様にご苦労様と申し上げ、私の謝辞を締めくくらせていただきます。ありがとうございました。

#### ◆率直な感想 門脇宏幸

今回の準優勝はとても運が良かったです。細かい勝負が多く、最後の最後で勝ちになった対局が何局かあったので。反省は一点だけ、窪田さんとの対局でウツテガエシが分からなかったことです(苦笑)。このリーグ戦の課題は、リーグ期間中に段級位が変化してしまうことです。最後は 5d(4d が妥当)になりましたが、一局だけ 3d で打った対局もありました。お互いに上がり下がりすれば、2 子以上ハンディが変わってしまうこともあるので。改善を望みます。

#### ◆最多対局賞をいただいて 高淵秀嘉

大会に参加するにあたって、できるだけ「毎日 2 局」を目標に頑張ってみようと言いつけました。参加者の棋力はほとんどの方が私より上で御指導を受ける良い機会です。そしてまた、前大会(新年)まで長年大会世話人の端くれを勤めさせていただいた私としては、全体の対局消化率向上に少しでもお役に立てば、という気持ちもありました。そこで、会期中は「毎日午前と午後に必ず 1 回以上」SIIG の部屋に入室してしばらく滞在し、「新規対局」で不特定の相手の出現を待っている人については私が相手になり、また誰か相手の出現を待っておられる様子の人については私が新規対局でお誘いするということをしてみました。結果は、私の対局数 17 のうち 2 局(事前連絡)を除く 15 局が上記の方法で実現しました。大会世話人の適時適切な進行管理と、背景に新型コロナウイルスの「ステイホーム」要請や猛暑による外出自粛の影響もあったと思います。前例のない全体の対局消化率の下、私には予想外の 15 局の実現でした。努力賞の「最多対局賞」を思いがけなくいただくのは嬉しく、感謝申し上げます。ただ今回の私の勝率は 5 割以下で、内心忸怩たるものを拭い去ることができません。今回の私の対局棋譜中、特に負け碁を今後再現(註)して反省し、もう少し強くなりたいと思います。このようなことを居酒屋でふと漏らしたら、横の棋友がさりげなく呟きました。「80 歳を過ぎて囲碁を勉強しても上達しないと世間では言われているけど・・・」。嗚呼。(註)画面上部の「ユーザ」→「ユーザ情報の編集」→「対局記録」→お目当ての対局を右クリック→「この棋譜をロードする」→ロード先を指定(以下略)

#### ◆皆さんにありがとう 菊本慶治

今回も沢山のメンバーの参加で毎日が盛況。良かったですね。願わくば、SIIG の部屋が毎日のよ



うにメンバーでいっぱいになればうれしいですね。対局数が増えれば、ご自分の段級位グラフを見る楽しみも生まれます。今大会は門脇 5d さんのすべての対局を観戦していました。何目の置き碁でもごく自然な着手を続けていて、最後に2目か3目残っている、という不思議な勝ち方。そんな門脇さんから数目残した高瀬さん、中押し勝ちの藤石さん・野々垣さん。一步も引かないすばらしい対局を見せていただきました。羽山さんや湯浅さんの奮戦ぶりにも刺激を受けましたし、皆さんに、ありがとうございます。

#### ◆大きな楽しみ 阪本好伸

まずもって、大会準備と成功裏に終わるように見守っていただいた世話人会の皆様に心から御礼申し上げます。私にとっては対戦結果もまずまず満足のいくものでしたし、勝敗に関係なく参加者のどなたと打てるかと考えながら連日入室し、大いに楽しめました。

[目次へ](#)

## メキシコとの交流試合 西原口 晃

今年は、海外との KGS を活用してのネット親善試合を2月にアルゼンチン、5月にチリと行ってきましたので、今回は中米の大国メキシコを選びました。メキシコとの親善試合は、2015年のSIIGの交流団訪問以降、彼らとの絆の維持のために窪田前理事が労を取って毎年開催していましたが、退任後に途絶えていましたので、今回は良いタイミングでした。メキシコの囲碁事情については、『一碁一会』の2015年メキシコ囲碁交流特集の中で関口会員が述べていますが、主流はUNAM(メキシコ国立自治大学)の卒業生、学生などの若者グループです。今回のコンタクト相手は、そのグループのリーダーである Emil Garcia という UNAM の数学科出身の 34 歳の青年で、肩書はメキシコ囲碁連盟の会長で棋力は 5d。そこで、彼に打診をしたところ、早速、日時(日本時間：11月23日午前中)と人数(11人)、試合形式は先の2か国とは違って、持ち時間45分の互先のガチンコ勝負がしたいと具体的に提案され、その積極性に最初は驚かされました。それを受けて、当日に参加可能な SIIG 側のメンバー表を先に送付すると、それに合わせて段級差二つの範囲内で彼自身を主将としたメキシコ側の人選をしてきました。(毎回参加しているメキシコ No.1 の選手(7D)を外す余裕を見せられ、一寸悔しい思いをしました。)当日は、メキシコ側に一人ドタキャンが出ましたが、結果は6勝5敗(その不戦敗を含む)と辛うじて面目を保てました。(私は同段の相手に負けましたが。)今回メキシコ側の強い対抗意識に接して、外国の青年にとって囲碁は「棋道」でも何でもなく、いわゆる「マインドスポーツ」といわれる頭脳競技であり、対等の条件で“相手に勝つ”ことが最大の喜びなのだということを改めて気づかされた次第です。ともすれば、横丁の隠居さながら「健康で碁が打てるだけで幸せ」という気分が陥りがちな私にとっては、今後彼らとの交流試合に臨む姿勢を考える良い経験になりました。最後に、今回の試合に参加していただいた SIIG の選手の皆様に、ご協力を感謝します。同じ主将格で Emil と対戦された野々垣会員

(4d)と5年前の現地交流団の一員であった山下会員(1K)から、対戦記をいただきましたので併せてご覧下さい。

### ☆ 敗戦の記 野々垣 悦宏

今回のメキシコとの対抗戦に、何故か対戦者名簿の一番上で参加することになりました。対戦相手は Emil Garcia 氏 (4d) で、世話役の西原口さんからは絶対に勝つようにとのプッシュを受けて、緊張して当日を待ちました。対局のセットのため早めに入室した時にふと Emil のユーザーデータを覗いたらたら、5d~6d が実績でした。このクラスの2d 差での互先ではかなり苦しいと思っていたところで、対局開始となりました。KGS の握りは白番に・・・長い碁にしては実力差が出るので、ねじり合いの碁で、ラッキーパンチを狙ったのですが、あえなく 73 手でノックダウンされました。Emil 氏の 碁風などをレポートするはずでしたが、まったくその域に達することができませんでした。対抗戦に参加された皆様、申し訳ありませんでした！ 次回は対抗戦でなく、自由な交流会が嬉しいのですが（負け惜しみでしょうか）。

### ☆ 惜敗の対戦 山下 隆史

2015 年のメキシコ訪問以来、いろんな意味でメキシコの碁友と交流が深まりました。そのひとつとして毎年のように KGS を用いたネット親善試合に参加してきました。今年は、訪問時お会いした主将の Emil さんや Quintero 先生の名前もメキシコチームの中に見受けられ懐かしい思いです。私の対戦相手は Temilotzin Ibarra さん (2k)。結果からすると負けました。序盤はスムーズに流れ、多少黒番の私の方が厚いかなと思っていましたが、中盤に入り、黒模様の中に白が果敢に入り込んできて乱戦模様になりました。途中、打った瞬間に分かるようなミスをして決め所を逃してしまいましたが、後から検討してみると、その後も形勢は悪くなかったようです。時間もたっぷり残っていましたが、冷静にヨセをまとめていれば結果は違っていたかとも思います。しかし後の祭り。よくあることでいつも反省です。

[目次へ](#)

## KGS 新春ネット囲碁大会 野々垣 悦宏

SIIG 新春ネット囲碁大会が 1 月 14 日から 23 日までの 10 日間にわたり開催されました。対局は囲碁対局ネット「KGS」で行われました。新型コロナウイルスに対する緊急事態宣言が、11 都府県で発令される中でネット囲碁は碁友との対局機会が得られる貴重なインフラとなっております。参加者は昨年の夏の陣と同じ 19 名でした。参加者の皆さんは精力的に対局され、対局数は 128 局 (13.5 局/人) で総当たりリーグの消化率は 75%と昨夏の大会を超える高いレベルとなりました。

結果は次の通りです。優勝 三島真也さん(4d) 11勝7敗、準優勝 高瀬秀嘉さん(3k) 10勝

7敗、最多対局賞 羽山定克さん(4d) 18局 (全局)。なお、羽山さんは最多対局賞を辞退されました。世話人会は、羽山さんが本大会の対局推進に多大な貢献されたことを評価し「特別功労賞」として表彰することといたしました。

大会は、連日午前中から夜半まで熱戦が繰り広げられました。仕事や体調、家庭状況など参加者それぞれの事情はさまざまありましたが、大会参加の皆さんは可能なかぎり対局に臨んでいただきました。巣ごもり生活が常態化したためか、ここ数年の中では最も盛況な大会となりました。大会の対局では、優勝を目指して真剣に頑張った方ばかりでなく、晩酌の一杯機嫌で対局に臨む余裕派（不埒もの?）も見かけられ、多くの碁友（碁敵）と久しぶり、あるいは初手合いの「手談」を楽しむことができました。参加者の段級位は5d～5kと大きな幅がありましたが、段級位の上下に関わらず皆さんが積極的に対局を促進され、大会を大いに盛り上げていただきました。置き碁という囲碁特有のハンディのおかげで、誰でも同じ土俵で対局を楽しめることの素晴らしさを感じました。今大会は対局設定のミスや終局処理のミスがほとんどなく、スムーズな運営ができました。大幅な改善であり、世話役として参加者の皆さんに感謝いたします。次回のネット大会は本年8月が予定されております。まだKGSのネット囲碁で対局したことがない方は是非KGSに参加していただきたいと思います。対局時にはチャットであいさつや、検討もできます。また対局のポイントをメールで行うなどで、初めての人との会話が進むなどの効果もあります。SIIGのメンバー間の対局ですので、一般のネット対局でたまに経験する不快な経験ありません。次回の大会までに一度KGSネット碁をお試しいただければと思います。ネット碁に不案内な方は、扱いの慣れたKGSメンバーに手引きをお願いすることもできますので、お申し出ください。海外の碁友との対局も楽しめます。チリやメキシコ、アルゼンチンなどとの交流戦も行われております。交流戦には海外の女性も多く参加しておりますので女性の参加は大歓迎です。コロナ禍の中で、対面する対局はまだまだ憚られる状況です。ネット碁に慣れていただければ、楽しい囲碁ライフが訪れるものと確信しております。大会参加の皆さま、大会の運営にご協力いただきまして大変ありがとうございました。盛況裡に大会を終えることができましたこと感謝いたします。次回もよろしくお願いいたします。

#### ☆思いがけず優勝 三島 真也

序盤戦で負けが込み、少しでも対戦成績を5割に近づけるように心がけていました。まさか、優勝できるとは思っていなかったのととても嬉しいです。

今回は、置き碁でたくさん負けさせましたが、級位者の方がとても強くなっているのに驚かされました。全員の参加者との参加者も達成でき、とても実りある大会となりました。

また機会がありましたら、ぜひ参加したいと思っていますので、そのときはよろしくお願いいたします。しばらくはコロナの影響で満足な囲碁活動ができず、SIIG会員のみなさまももどかしい思いをされていると思いますが、みなさまが1日でも早く元の活動ができるようになればと願っています。

## ☆老兵の弁 高淵 秀嘉

前回の昨年夏期大会で最多局賞、今回は準優勝と連続の受賞に申し訳ないような戸惑いの気持ちを感じています。しかし、低い勝率でいただいた前回受賞時の内心忸怩たる思いは今回はありません。思いがけない幸運を率直に喜びたいと思います。

今回は、どういう訳か高段者との置碁の勝率が良く、10 目以下の微差で白星をいただくことが多かった。大会参加者中たぶん最高齢(84 歳)相応に「まずは地歩を固め、時には勇気を持って打って出る」という方針で臨んだのが良かったのかも知れません。

それにしても、6 子も置きながら最後に数えてみると、危うい微差に追い込まれている。当方が途中いかに「不要不急」の効率の悪い手を重ねているか、改めて強く思い知らされた大会でした。棋譜は6 か月間 KGS 内に保存されていますので、「外出自粛」の当世、この機会に是非再現し勉強してみたいと思います。

世話役のお三方には今回も大会を立派に運営され、われわれ参加者に「ステイホーム」の楽しい時間を与えて下さいました。心から感謝申し上げます。

振り返ると、ネットサイトの KGS にわが SIIG の部屋「Sala de SIIG de Japón」が創設されたのは 2011 年 9 月です。当時の役員会の決定に基づき「会員相互の親睦」と「ネット碁による国際交流技能の向上」を目指すものでした。今年で早くも 10 年。現在では世話役の皆さまの尽力で、この部屋でメキシコ、チリなどの過去の訪問国と時おり親善対抗ネット試合を開催するまでに進化しています。

NPO 法人 SIIG の事業活動の中核は、相手方の国に赴く「現地交流」であることは今後も変わりないはずですが。しかし KGS の部屋が、この現地交流の成果を一過性でなく継続的に発展させる（上記親善ネット試合などの例）補充的・補完的機能を果たすこと、また更には、時代の進展・変化に対応して「現地交流と並ぶ」SIIG の確固たる中核活動の一つの場になることを願っております。

投稿の機会をお借りした老兵(10 年前、KGS 内の SIIG の部屋創設に関わった一人)の去り際の多弁をお許しください。

## ☆大会に参加して 湯浅荘三郎

わが囲碁国際交流の会の KGS 上での新春大会が開かれたので今回も参加しました。悔しいことに KGS 上での私のランクは 5k ですので、いつものことながら順位表では私が最下位になります。参加者の上位には 5d とか 4d とかの全国大会に出るようなすごい高段者も名を連ねておられる故、これまでは努めてそのような位の違う人は避けて、精々 1d クラスの人までと対局したいと考えてあまり段位に差がある人とは対戦しないように避けてきました。ところが先場所に突然高段者の羽山さんから是非対戦したいと声をかけられ、申し込まれたら断るわけには行きませんので対局させて頂きました。どうせどこか囲まれてボロボロにされて中押し負けになるのではと思って始めたのですが、意外にも殺される石が無く最後まで打ち切ることができました。

それで今場所になったわけですが、今回は驚いたことに羽山さんを初めとして野々垣さん、杉目さ

ん、三島さんなど2d以上の高段者から直接対局のお誘いがありました。お誘いを受ければ断るわけにはゆかず、前回の羽山さんとの経験がありましたのでまあ中押し負けだけは避けて善戦できればいいやと考えて始めたのですが、なんと驚いたことに結果は野々垣さん、三島さん、杉目さんに勝つという『春の珍事』が起こったのです。実は前回は1勝しかできず一旦6Kにさがったのですが、今回はどういうわけか勝ちが続いて結果的に7種8敗という望外の結果になりました。

私は津田沼囲碁クラブという所で李青海7段という中国出身のプロの教室で勉強してきたのですが、これまではその成果があまり出ませんでした。ところが今回はその先生の授業でよく出てくる戦型が実戦に何度か出てきたのです。これが私としてはよい戦いが出来た原因だと思っています。

という事で今回の大会は毎日楽しく対局を続けることが出来ました。このくらい勝てれば大会に参加しても楽しいかと、一人で悦に入っている次第です。次回も参加しますのでその際はよろしく願いします。

### ☆自戦解説 窪田光哉

恒例のネット大会には、毎回参加させていただいていますが、今大会の成績は3勝7敗と目標の勝率5割には遠く及ばず、今は棋譜を見返しては反省の日々を送っています。以下は、今大会の中で、特に記憶(≒悪夢)に残る4局についての自戦解説です。

まずは、大会緒戦の野々垣さんとの対局です。野々垣さんとは過去に何回も対局し、3子ではなかなか勝たせてもらえないものの、4子なら流石に何とかなるだろうという甘い考えで臨んだのが本音でした。しかし、対局開始早々に勝手読みで相当な石を取られてしまった後は、終局までずっと相手になすがままを許すとともに、守らなくても良い所を守ったり、守らなければならない所を手を抜いたりというまったく情けない碁で惨敗しました。この敗戦が大会中ずっと尾を引いてしまいました。

2戦目が西原口さんとの対局でした。西原口さんにはいつも口で負かされっ放しなので、碁では何とか勝ちたいという相手です。中盤までは優勢だったものの、無理手を1手打ったばかりに負けにしまいました。冷静に形勢判断して無理しなければ勝っていたのにと悔やまれる1局でした。

次は、菊本さんとの対局です。菊本さんは、私がSIIGに入会した6年前から棋力が拮抗しており、永遠のライバルと(私が勝手に?)思っている相手です。中盤までで相手の大石を召し取ったと思って油断した途端にミスを連発し、攻め合い形にされ、さらには手数優位から、セキ、そして最後には1手負けにされ、戦意喪失した1局でした。

最後は、今大会最終局の高淵さんとの対戦です。高淵さんは、これに勝てば優勝という1局で緊張(?)されていたのか、中盤で私がかかなり優勢になりました。しかし、私にとって今大会初めての晩酌後の夜の対局ということも手伝って、例によって私がミスを連発し、後は半コウ争いを残すだけという段階で、私の数目負けという状況でした。しかし、ここで私のコウ材に対する高淵さんの

決定的な対応ミスが出て、勝ちを拾わせていただきました。高瀬さんには本当に申し訳ない碁になってしまいました。今大会の参加申し込みメールを世話役のお三方に出した際、「手っ取り早い棋力アップの方法があったら誰か教えて欲しい」と書き添えていたところ、野々垣さんから「そんなものは知らない。もし知っていても誰にも教えない」という主旨の愛情あふれる返事がありました。今大会を通して、私は自力で、即効性のある棋力アップというよりも勝率アップの方法を見つけました。それは、私の力でも分かるような「自分のミスが減らす」ということです。勉強もしないで「良い手」を打てるようになるのは難しいとしても、これなら何とかかなりそうな気がしますので、ぜひ次回大会に活かしたいと思います。

### ☆大会を振り返って 平岡勝男

このネット囲碁大会は、毎回楽しみにしている大会です。

つまびき局連敗局を目標に打ち進めと心算し、対局を済ませた後、書き返しの初戦の研鑽と自分の対局から満足いくものでした。

勝てた対局には、いつもなかなか勝てない西原口さんに対する白星や優勝者三島さんに白星(金星?)があります。敗戦の中には、アタリに気が付かないというあきれ程のミスがあったり、どうにかなるだろうと読みが甘かったりと、いつもの悪い所がはつきり出ていました。ここが少しでも改善できれば、勝率も上がるのではと、次回に期待します。普段は、四、五段の強い方に打ってもらう機会がないので、非常にためになりました。コロナ渦中、憂鬱な日々が続いていましたが、対局や観戦を毎日、楽しむことが出来ました。

[目次へ](#)

## 19・20年度トピックス

### チリの積極派青年 西島 昭

日本とチリの関係は1897年の通商航海条約以来、経済文化両面で交流が続いている。近頃はチリ産の格安ワインは個人的にお気に入りだ。

SIIGは2007年にチリを訪問（この頃私はまだ会員でなかった）、さらに2011年に再訪問している（この時私はキューバに滞在中で参加できなかった）。そして、チリの囲碁留学生愛称バルトが合田さん宅に3か月滞在したのは2010年、2018年にはセルヒオ青年がやはり3か月合田さん宅にお世話になって囲碁を学んだ。

この間、2015年10月に韓国で囲碁を勉強しているイグナシオ青年が短期で日本に滞在、2017年12月にはセバスチャン・モンティエルさんとクラウディア・フローレスさんが世界アマチュアペア碁選手権戦チリ代表として来日。そして今度は、2019年6月松江市で行われた第40回世界アマチュア囲碁選手権大会に参加するためカール・ニコラス・シュローテルさん（愛称ニコラス）がチリ代表としてやってきた。ニコラスは前チリ囲碁連盟会長とのことで相当の年齢かと思っていたが、30歳の好青年だった。

なんと、事前に囲碁を勉強するとのことで3月20日に来日、プロ養成でも定評のある洪道場に宿泊してプロを目指す若手とともに勉強して大会に臨んだ。

最近のアマチュアはネットで最新の定石や戦型などを学ぶことができ急速に腕を上げている。当然のように、AIの手法も学びながら大会に臨んでいる。また、今年の大会では、中国人があちこちの国の代表として参加していて、全体のレベルが大幅に上がっている。

ニコラスは、10年前にもこの大会に参加したとのことで、その時は2勝6敗で順位はかなり下だったので今度はできれば20位ぐらいにはなりたいたいと言っていた。結果は4勝4敗で59人中の30位。しかし、三段で登録して四段の選手にも勝ち、立派な成績といえる。

ニコラスの日本滞在中、私は何回か彼と楽しい時を過ごすことができた。まずはじめは、4月2日。阪本さん、および阪本さんが10年以上前 JICA の囲碁指導員としてチリ滞在中に同期だった柔道家の今里さん、JICA の取りまとめ役の今西さん、そして SIIG から湯浅、窪田、粒良、西島がニコラスを囲んで集い、囲碁対局のあと、近くの居酒屋で歓談した。ニコラスは日本酒もかなりいけるので忌憚なく楽しむことができた。ゴールデン街にも阪本さんと3人で行った。

次は4月22日、つくばねの大会に招待した。阪本さんが先番で打つ実力なので参加者の上位にランクした結果、3勝2敗とまずまずの成績だった。

次は5月3日、池袋の例会。谷宮さんに先番で打ってもらったが、谷宮さんは初対面の相手だったのかしっかり油断なく打ち、白番中押し勝ちとなったが見ていて楽しい碁であった。その後、居酒屋

でワイワイ懇親を深めた。

その次は5月21日、火曜日。西原口さんから連絡があり、ニコラスがお世話になった方にお礼を言いたいということで、日本棋院でニコラスを囲んで、合田さん、西原口さん、私が集まった。チリ人セルヒオが合田さんにお世話になったので、当時チリ囲碁連盟会長だったニコラスは合田さんにお礼を言いたかったのかもしれない。そこで私は2度目のニコラスとの対局。前回(4月21日)は私の負け、今回は私の勝ち。ほぼ同レベルの実力と思うが、気配りのニコラスが、まさか??? 懇親会は馴染の居酒屋「テング」。支払はニコラスが率先して行なってしまった。

その次は、6月7日、池袋の例会にて。松江の大会は5日に終わり6日は観光日、翌日午前のフライトで東京に戻ったのかもしれない。ここでまた谷宮さんに一局打ってもらった。ニコラスは前回よりしっかり打っているように見えた。厳しい戦いを経験してきて腕が上がったのかもしれない。

交流対局ののち居酒屋で懇親会。さらに谷宮、山下、西島、ニコラスは、ゴールデン街に行き、谷宮さんの行きつけの店、「一步」というプロの将棋棋士が集まるところに行き、将棋を指したりした。ニコラスは将棋は初めてだったが覚えが良く、早速谷宮さんに見よう見まねで指していた。さらに3件目は、歌舞伎町ど真ん中の立ち飲みバー。なんと支払いはニコラスが行なった。いよいよ私は酔って、最後は馴染の碁会所「秀策」でごろ寝。自分ながらヤレヤレ。



阪本さんからの連絡で、ニコラスは11日に帰国するが、その前の9日、お世話になった人に一献差し上げたいとのこと。阪本さん、今里さん、下西さん、谷宮さん、窪田さんとともに集まった。日本人グループは、海外の若者に勘定を払わせるのは具合が良くないとの思いから、日本の慣行という



ことで、熨斗袋に BON VOYAGE の挨拶状とともにお饞別を贈ることにした。

話が盛り上がりかなり出来上がった勢いで、最後の一局ということで、阪本、谷宮、西島、ニコラスは碁会所「秀策」に向かい交流対局を行った。そしてさらに、当日の激しい雨の中を思い出横丁に向かい、外国人観光客に交じって、もつ焼きを楽しんで解散した。

世界大会に参加する前、ニコラスは京都、奈良、大阪を観光するとのことだったので長谷川加奈美さんを紹介したところ、長谷川さんは十分に引き回して、ニコラスに思い出深く日本を楽しんでもらったようであった。

ニコラスは爛酒も刺身も納豆も好きという。お銚子を両手に持ちお猪口に注いでくれたりする。二次会、三次会も断らない。時にはお勘定を率先して払ってくれる。世界大会に出場した日本代表川口少年とも洪道場で親しくなったようだ。これまでの外国人とはちょっと違う積極型人間だ。

[目次へ](#)

## 韓国金寅国手杯参加 野々垣 悦宏

韓国で開催された金寅国手杯国際シニア囲碁大会（以下金寅杯）に参加して参りました。金寅杯への参加は SIIG の正式な行事ではなく、個人資格で参加を申込み受理されたものですが、アマチュアの囲碁国際交流に関わる事例の一つとして大会の状況をお知らせしたいと思います。

### 1. 大会の概要

日程：2019年10月25日(金)～28日(月)、場所：全羅南道 康津郡（韓国の南の地区）国民体育センター体育館、主催等：主催 康津郡、主管 韓国棋院、後援 全羅南道および康津郡、協力 全羅南道囲碁協会および康津郡囲碁協会

### 2. 大会の背景と歴史

大会名称に冠せられる金寅（キムイン）九段は、1943年康津郡に生れた韓国を代表する棋士で、霸王戦7連覇、国手戦6連覇などの輝かしい成績を挙げ、棋士会長4期を務め、現在は韓国棋院理事という韓国棋界の重鎮であります。大会はこの金九段の業績を国内外のアマチュアシニア選手とともに称え、かつ囲碁愛好家間の友情を育むために、また併せて全羅南道康津郡を世界に向けて広報する目的のために開催されています。金寅杯は今年で13回目を数え、多くの国から囲碁愛好家が参加しております。

### 3. 参加国と参加人数

日本15人、中国37人、オーストラリア6人、スロバキア4人、アメリカ2人（以上海外から64人）、韓国約200人、総参加者260人。なお、SIIGからは合田前会長をはじめ8人が参加しました。

#### 4. 日程と大会結果

・10/25 12:00 仁川空港（ソウル）に国外からの参加者が集合し、バスにて5時間半をかけて康津郡に到着。主催者招宴の歓迎レセプションに出席。康津郡守、全羅南道囲碁協会長、金寅九段の歓迎のあいさつを受け、その後韓国料理を満喫しました。

・10/26-27、2日間にわたり男女団体戦（4人チーム）、男女個人戦（各 A,B クラス）に分かれて、団体戦各4試合、個人戦各5試合がスイス方式で戦われました。男子団体戦では関西チーム（SIIG 阿部さんが参加）が4位、NNKK チーム（SIIG 菊本さん、西原口さん、窪田さん、野々垣）が6位と健闘しました。1位～3位は韓国のトップアマチュアがチームを作り参加し圧倒的な力を見せつけました。また、海外からの大会参加者の中で最年長の合田さんと、女性最年長の下村さんが特別表彰を受けました。

・大会の表彰式の後、主催者招宴で歓送晚餐が催され金九段との名残を惜しみました。またこの頃には日本人間だけではなく、他の国からの参加者とも親密になり、中国語、英語、韓国語が飛び交う賑やかな会となりました

・10/28 仁川空港に向け5時間半のバスの旅。バスの中でもスロバキアやアメリカの参加者と言葉を交わす光景が見かけられました。仁川空港到着後日本人は全員、関空、成田に向けて無事帰途に就くことができました。

#### 5. 感想

日韓政府間の険悪ムードがあり、訪韓を懸念する向きもありましたが、金寅杯開催の関係者の皆さんはもとより、ソウル市内や康津の町の商店や観光施設の人達も大変暖かく接していただき当初の懸念は全く感じられませんでした。用意されたホテルも質素ですが清潔で整っており従業員もよい対応でした。大会については韓国勢のレベルが高く、アマチュア No.1 や元プロの人も参加していました。その中での団体戦16チーム中4位と6位は自賛できるものと思っております。囲碁という「手談」を通して、全く言葉の通じない外国の方とも心を通わせることができることを体験できたことは嬉しく、実りある訪韓となりました。金九段、韓国棋院、康津郡政府関係者の皆さん、カンサハムニダ（感謝）でした。

[目次へ](#)

## 加藤正夫名人の書を寄贈 杉目 正尚

この度、私蔵の加藤正夫名人の書を日本棋院に寄贈することとなり、2019年10月22日に小林覚理事長に会い引き渡しました。

90 x 170cmの巨大な扁額、落款に『名人』とあり1987年頃の作でしょうか。3年前、北見東和ホテルの倉庫にあったものを譲ってもらいました。支配人の話では、当時のホテルは手広く営業していて、棋戦御一行様の宿泊などもあったようです。現在はコンパクトなビジネスホテルとなり、レストランの改装で飾るスペースがなくなり、そもそも客層も変わってしまったためお蔵入りしたのだそうです。

新得の田舎に飾っておくのは勿体なく思っていたところ、秋山賢司さんの紹介で今回の寄贈となりました。小林理事長曰く「兄弟子加藤先生の書は拝見したことありますが、こんな大きく力強い字は初めて見ました」、「加藤一門とも相談して然るべき処に飾りたいと思います」。

西島事務局長も同席してくれて、理事長に囲碁国際交流の会の宣伝とパンフ配布の願いをしてくれました。近々、写真と秋山さんの文章で『週間碁』の記事になるようです。



[目次へ](#)

## 合田-チャーゴ往復書簡 合田 寅彦 (翻訳:小島 伸生)

(これは 2006 年合田前会長宅に 1 年間ホームステイしたキューバの囲碁留学生と合田さんとの心の交流書簡です。)

### ☆合田さんからチャーゴへ

いま、日本は春の真っ盛りです。わが家の大きな桜の木もピンクの花で満開です。



チャーゴがいたときのスワラジ学園は学生も沢山いて賑やかでしたが、10 年を経て今は学校を閉鎖し、誰もいません。隣の前田さんの庭からもらった木(ベニカナメモチ)をチャーゴと一緒に穴を掘って植えました。憶えているかな。すでに屋根より高くなりました。

チャーゴに碁を教えてくれた町の人たちも今は高齢になって会うこともありません。スウカイセキ(鄒海石)先生はお元気で、君のあとに来たチリの留学生(3ヶ月)二人を指導してくれました。スウ先生もチャーゴのその後の成長を期待しています。

チャーゴは今何をしています? 碁のインストラクター? 以前、南米の碁の大会で3位になったことは知っています。

私が今も心に痛みとして残っているのは、私たち訪問団一行がチャーゴの家を訪ねたときです。もう夜になってすぐに移動しなければならず、せっかくお訪ねしたのに少しの時間しかありませんでした。チャーゴのお母様が手づくりの料理を作って迎えてくださったのに、その料理に手をつけることなくおいとましたことです。お母様に申し訳なく、今も私の心が傷むのです。

チャーゴのご両親はお元気でしょうか。チャーゴのご家庭はどんな様子かな？ 私たちの会は  
今もチャーゴのことを懐かしく思っている人がたくさんいます。チャーゴの近況をお知らせくだ  
されば、私たちの会報に載せることができます。  
よろしく！

合田寅彦

Querido y apreciado Chago,

Espero que te encuentres bien de salud junto con todos tuyos.

Como puedes recordar hoy en día Japón está en plena primavera y el cerezo de mi casa  
está lleno de floración. Pero pasaron 10 años desde tu estancia la pequeña escuela agrícola  
ya encuentra cerrada perdiendo todo de aquello alegre ambiente con muchos estudiantes.  
Pienso que acuerdes todavía de que plantamos contigo una mata de hojas rojas que me  
regaló un vecino Maeda san. Esta ha crecido más alta que el tejado de la casa.

La gente de la comunidad que te enseñaron Go han llegado a edades avanzadas y ahora  
con pocos contactos. Mientras el profesional Su Kaiseki se encuentra bien de salud.

Después de ti él enseñó a dos estudiantes chilenos por tres meses y siempre espera tu  
progreso.

Quisiera saber en que trabajas y que rutinas tienes hoy en día. Estoy enterado de que un  
tiempo ganaste tercer puesto en un campeonato sudamericano. Tengo que pedir una  
disculpa a tu mamá: es que cuando visitamos tu casa, nos retiramos rapidamente sin  
apreciar las comidas preparadas por ella por escasez de tiempo. Que dile por favor mis  
excusas.

Todos nosotros te recordamos y extrañamos. Al final te agradezco de antemano si nos  
pudieras enviar ultimas noticias tuyas para publicar en la próxima edición de nuestra  
revista.

Cordial saludo,

Torahiko Gohda

☆チャーゴから合田さんへ

Estimado Goda san

Que sorpresa tan agradable recibir noticias de ustedes!

Una alegría en medio de tanta incertidumbre que estamos pasando.

Son mis mayores deseos que todos se encuentren bien, en medio de esta pandemia que nos  
tiene tan angustiados.

Nosotros hasta este momento no hemos tenido que lamentar casos de virus en familia.

Seguiremos cuidándonos para evitar que eso no suceda, pero cada día en Cuba ha sido aumentando y Sancti Spiritus en estos momentos está dentro de las provincias que tienen una tasa muy alta de contagios. Hay que seguir cuidándose mucho. Cuando recibí el correo que me envió Kojima san, fue muy grande la emoción, no los he olvidado ni un momento, siempre estarán en mi recuerdo y en mi corazón, a pesar de mi dejadez de no insistir con los correos.

De mi vida les cuento que sigo viviendo en el mismo lugar, junto a mi mamá, mi abuela (ya con 95 años) y también mi esposa. Mi padre hace poco tiempo comenzó a sufrir la enfermedad de Alzheimer por lo que ha requerido mucha más atención de mi padre. Continuo trabajando en la Universidad, ahora me desempeño como Administrador de la Red Informática, de la Facultad de Humanidades. Mi esposa también trabaja en la Universidad. Sobre el Go, he tenido poca actividad, todo ha descendido con esta pandemia, no he tenido muchos contactos con los jugadores de La Habana. El grupo que había motivado a la práctica de este Arte en mi provincia se ha desintegrado, algunos han podido acceder a jugar en internet. Aún me mantengo repasando bibliografía y jugando en internet partidos por correspondencia para mantener el ritmo, pero no hay nada comparado con el sonido de las piedras en un tablero de madera.

Mis saludos extensivos para toda la comunidad de Go cercana a la casa, al maestro profesional Su Kaiseki, a aquellos jugadores que me acogieron en su casa por diferentes lugares de Japón, a los vecinos y demás amigos. No los olvido. Y mis mayores afectos para usted y la señora Hiroko y familia. Ojalá pudiera verlos nuevamente para darles un fuerte abrazo.

En espera de recibir sus noticias muy pronto. Cuídense mucho!

Con todo mi aprecio.

Chago

拝啓 合田様

メール大変嬉しく拝見しました。この難しい時にとても嬉しいお便りでした。このパンデミックの中で皆さんお元気のよし、何よりです。

私は家族ともどもコロナとは無縁で元気にしております。日頃用心はしていますが当地キューバでは感染が増えており、サンクティ・スピリトスも感染者の多い地域の一つです。これからも用心怠りなくやって行きます。

小島さんから合田さんのメッセージをいただいた時は大変感激しました。私の怠慢からご無沙汰しましたが、いつもお二人を忘れずに思っています。私は今も変わらず同じ家に母、95歳の祖母、妻とともに暮らしています。父は先刻アルツハイマーを患い、いろいろ手助けが必要になりました。

私は変わらず大学に勤め「人文科学部情報通信課」の管理者をしております。妻もこの大学勤務です。碁はコロナのせいで活動が減りハバナの連中との接触も少なくなりました。かつて熱心にやっていた当地のグループも今は分散してしまいましたが、ネットで打っている者はおります。私は棋力維持のため参考書をひもときネットで打ってはいますが、盤上の石音がないのは寂しいかぎりです。近隣の皆様、鄒海石先生、日本各地でお宅へ招いてくださった方々、皆様へどうぞよろしく。皆様を忘れません。合田さん、浩子奥様、ご家族、お慕いしております。またお目にかかり抱擁の日が来ますことを！ ご返事をお待ちします。

チャーゴ

[目次へ](#)

# 会員エッセイ：コロナ禍の日常

## 最後のBBQ、激動の2020年 杉目 正尚

私の人生にとって激動の年であった2020年を自身の記録のためにまとめてみた。

### 2019年10月 最後の就職

帯広の中小病院2つが合併し、札幌医大系の大きな組織の傘下に入った。その時たまたまフリーだった私は大学の先輩である理事長に呼び出され、末席に名前を連ねさせられた。この先輩は、施設入居中の母の主治医でもあった。

### 2020年6月 母の往生

父の死後3年間、我が家の離れで自活していた母が身の細かいことができなくなり、施設に入ってもらった。今年95才になった。その日、深夜に呼び出されて施設の部屋で母の死亡を確認した私は、翌日主治医の許可をもらって自筆で診断書を書いた。

### 2020年9月 最後のBBQ

我が家の自慢は500坪の敷地に畑と離れがあることだった。客が滞在する度に庭のバーベキューでもてなした。

母が亡くなったので離れは3年ぶりにゲストハウスに戻り、ひさびさに妻の許可をもらって、我が家でSIIG 囲碁合宿が出来る見通しがついた。しかし、コロナの猖獗にてあえなく断念。それでもゲストハウスの常客、円田秀樹プロは弟子を連れて9月に予定どおり新得に来たいという。札幌の囲碁会で越野さんらに話すと4人増えた。さらに大阪からゴルフに来る3人もまとめて〈囲碁レッスンとBBQ〉を実行することにした。来年こそは全国の皆で集まりたいねと言って解散、これが最後のBBQになるとは。

### 2020年10月 札幌へ転居

札幌で麻酔科医をしている長男の嫁40才が乳がんの肝転移で亡くなった。末期の数か月は自宅で療養。住み込んでくれていた向こうの母親は初七日まで滞在してくれたが、疲れ果てて苫小牧に戻っていった。

9才の孫の世話をするため、妻が長男宅に同居することになり、私も新得から札幌に持っていたマンションに引っ越すことになった。妻は身の回りの物を整理し必要な衣類をまとめて宅急便で送り、後はよろしくと出て行った。家庭を持ってから10回以上引っ越したが、荷造りはこれまでほとんど妻がしており、初めての単独作業となった。



札幌のマンションに入れるためには現在の家財を 4 分の 1 ほどに減らさねばならない。自分のものはなんとか減らせた。本はダンボール箱 3 個分残して捨て、文具 1 箱、衣類 3 分の 1 などなど。アルバム写真は 90%破棄。台所用品、掃除洗濯用品、家庭工具、畑用機材。困った。バケツ、鍋、皿、包丁、一輪車、耕運機、スコップ、竹材・・・ ええい、二つ以上同じものがあれば 1 個残して捨てる。似たようなものなら小さいほうを残して捨てる。使いかけの調味料、洗剤、液体、スプレー類は全部廃棄。

なんと・・・、最後に碁盤が 7 組出てきた。足付き碁盤 4 組は大型ゴミ、ガラス碁石は燃えないゴミハマグリ碁石 2 組と 2 寸盤 2 枚は老人クラブへ、折りたたみ盤とプラスチック碁石 1 組だけ荷に入れた。故加藤正夫名人の書はたまたま日本棋院へ寄贈したところだったが、吉田美香女流本因坊裏書の 2 寸盤には後ろ髪をひかれた。最後にリサイクル屋が 4 トントラック 2 台分の家具を持って行ってくれた。

## 2020 年 12 月 家が売れた

2003 年、私たちが設計を依頼した友人は、以前に倉本聡さんの自宅も建築していた。彼女に連れられて富良野まで行き、倉本さんご本人に案内までしてもらった。母屋と離れが素敵なテラスで繋がっていた。同じ発想でお願いした建物は築 17 年になっても未だに美しい。さらに我が家を見て倉本さんは、次のドラマの喫茶店をほぼ同じ図面で創るよう求めた。2005 年のドラマ『優しい時間』の舞台『森の時計』となって、いまま富良野プリンスホテルの敷地で営業している。

帯広の病院から羅臼診療所に出張を月 2 回繰り返していたため、行ったり来たりで、片付けは 11 月末までかかった。新得町 30 年の付き合いであちこち挨拶したりしているうちに、親しい商店の跡継ぎ息子が我が家を購入したいと言い出した。3 才の双子と 1 才の娘を連れて下見に来た。双子の男の子たちは大はしゃぎで、吹き抜けの上からどんどん物を投げる。確かにこの子らにとっては暴れ放題の良い家だと思った。

札幌の妻も、あれほど丹精込めて造っていた菜園よりも、今は孫の成長の方が優先と言う。さらに私が手入れしなければ家は朽ちていくと売却に賛成した。仲介者もないまま町内の司法書士の所で実印を押し、あっけなく売れた。



[目次へ](#)

## コロナで変わった生活スタイル 関口 清

この 1 年間はコロナ問題で振り回された年でした。

趣味の囲碁で毎年夏に参加してきた欧州囲碁コンgres (2003 年のサンクトペテルブルクから 2019 年のブリュッセルまで連続 17 回参加) は 2020 年のロシアでの開催が延期中止となり連続参加が途絶えました。今年の夏に延期された同じ ロシアでの大会も再度の中止で寂しいかぎりです。

仕事の方は中小企業を支援する「経営支援 NPO クラブ」の活動が、コロナ問題でほとんどWEB 会議となり、毎日パソコンの前に座ることとなりました。地方出張がほとんどなくなり美味しい地酒、地方料理を楽しむことができなくなりましたが、仕事の面では従来接することが難しかった地方の企業と容易に接点を持つことができるメリットもあり、WEB でのやり取りが慣れてきますと、マッチングや企業アライアンスの支援など結構うまくいくことも多く、再発見もありました。

自動車産業が CASE, EV 化、軽量化等で激変しており、中小企業がこれにどう対応するか問われる中で、各県の産業振興関係者の要請もあり、かつて自動車産業 に身を置いた者として、その対応に関する講演活動・個別企業支援活動も 6 回ほど行いました。講演をするということは、資料づくりが大変ですが、逆に良い勉強の機会となり、自己活性化、ボケ防止にも役立っています。

運動不足にならないようテニスを週 2-3 回はするよう心掛けています。

[目次へ](#)

## パンデミックによる趣味的日常の変化 高瀬 秀嘉

八十歳代の半ばともなると、長年生活の一部に過ぎなかった自分の趣味で 一日の大半を過ごすことが多くなりました。

私の現在の趣味は、囲碁、俳句 (ときどき短歌も)、それにスペイン語の勉強 の三つ。いずれも相当長い付き合いなのに一向に上達しないので、具体的な年数は恥ずかしくて言えません。

ところで、これら三つのうち、碁は他者との対面のゲームですし、俳句も句会という場で他者との交流が望まれる文芸です。つまり、二つとも他の方々と「物理的な近接」を伴います。古い言葉で言えば他者の「警咳 (けいがい) に接 する」趣味です。

しかし、昨年来のコロナ・パンデミックは、これらの趣味のあり方を大きく変 えました。感染予防のため他者との「密」「接」を避けることが社会的に要請さ れる結果、世間では、囲碁についてはインターネット対局、俳句は Zoom による句会が盛んになりつつあります。

私の場合も、囲碁は碁会所や大会参加など外で他の方々と接する機会はほ とんどなくなりました。その反面、KGS の従来からの「我らの部屋」(Sala de SIIG de Japón) で「パンデミックなど何処吹く風」と、世界中の棋友達と日々対局を楽しむ機会が増えています。これは、私にとって大変幸せなことです。

一方、句会については、パソコン等の通信機器に関心のない、または不得手な方も居られて、Zoom

による継続は見込めず、残念ながら私は脱会を選択しました。私の俳句について今後どのような方法で他者の評価や鞭撻をいただくか、この点については、後で述べるフェイスブックの利用を、その一つと漠然と考えています。

### さて、私の三つ目の趣味「スペイン語の勉強」について。

囲碁や俳句は老人の趣味の典型例で珍しくないが、いい齢をして外国語の勉強とは何事？といぶかる向きの多いことと思います。その最初の動機、学習成果の過去の利用例等については、本稿はその場ではないので省略します。ただし、もし興味のある方が居られる場合は、次のキーワードでネット検索していただくと、私の拙い随筆が出てきます。ご一読いただければ幸いです。

「民事法情報研究会だより NO.4 碁とスペイン語が会うところ」(拙稿は、我が SIIG の紹介・宣伝の要素を含みます) 閑話休題。一般に外国語の勉強方法は多種多様で、囲碁や俳句のように他者との交流が必ずしも伴うものではありません。私の場合、参考書独習、ラジオ講座聴取、文化スクール講座出席、文部省認定スペイン語検定への挑戦等ほとんど全ての手段を経験してきましたが、この数年は同好の士5人による月一回の研究会だけとなりました。

浜松のある公共的施設の一隅、無料で開放されている場所を借用しての楽しい集いでしたが、例の「ソーシャル・ディスタンス」を参加者5人の間で十分に確保することに不安があり、昨年8月からは Zoom により自宅のパソコンからの参加となりました。参加者5人のうち最も若い40代の同志が Zoom の部屋を立ち上げてくれました。

この研究会の主な内容は、前月の家庭内の、あるいは見聞した世間の出来事や何らかの感慨など、どんなテーマでも可、A4判1枚程度のスペイン語の作文にまとめ事前に各自に送付、当日それについて原則スペイン語で自由に話し合うというものです。

本年4月、この Zoom 研究会に提出した私の作文が偶々パソコンのファイルに残っていて、そして更に偶々、その内容が SIIG における私のささやかな活動(スペイン語を使っての活動)に関するものでしたので、後掲(Facebook y yo)のとおり、ご笑覧に供します。間違いの多い、あるいは生硬なスペイン語と思うと恥ずかしい。

以上のように、現在人類に未曾有の災禍をもたらしている新型コロナ・ウィルスのパンデミック(世界的大流行)は、私個人のささやかな趣味のあり方にまで変容を迫っています。

このパンデミック終焉後に、これら様々な変容のうち何が残り何が元に回復するか。私は、好奇心で今少しこの世に留まり(微笑)、その結果を確かめたいと思う今日この頃です。

Facebook y yo

10 de abril, 2021 Paco

Ya han pasado 8 años desde que me registré en Facebook con mi nombre personal. Durante ese tiempo, nunca envié mi información personal usando este Facebook. Toda la información que he enviado fue publicidad en español y japonés sobre una pequeña parte

de las actividades de SIIG\* (es decir, intercambio internacional a través de Internet Go) , el grupo de voluntariado al que ahora yo pertenezco.

Estas relaciones públicas deberían ser realizadas por el propio Facebook de SIIG. Ahora SIIG tiene su HomePage, pero su Facebook está en examen y aún no se ha realizado.

El año pasado pude entregar afortunadamente mi rol de cuidador de Internet Go mencionado arriba a los jóvenes.

¿Qué debo enviar desde mi página personal de Facebook de aquí en adelante? Ahora lo estoy considerando. ¿Qué tal fotos de flores o paisajes de las cuatro estaciones y mi haiku adjunto a ellas? ¿O debería dejar de Facebook en este momento porque ya tengo 84 años?

\* SIIG = Sociedad de Intercambio Internacional de Go

### フェイスブックと私 2021・4・10 パコ(高瀬)

私がフェイスブックに私個人の名前で登録してから、すでに8年が過ぎた。その間私は、私個人に関する情報をそこから一度も発信しなかった。私が発信した情報はすべて、私が所属するボランティア活動団体 SIIG の諸活動の部(すなわちインターネット基による国際交流)に関する広報(西日両語)であった。

このような広報は SIIG 自身のフェイスブックから本来は行われるべきだ。現在 SIIG は、そのホームページは持っているが、そのフェイスブックについては検討中で、未だ実現されていない。

私は昨年、上記のインターネット基の世話役を幸い若い人に引き継ぐことが出来た。

今後私は私個人のフェイスブックから何を発信すべきか？ 現在私はそれについて検討中である。四季の花や風景の写真と、それに関する私の俳句は如何だろうか？ それとも、私はもう齢(84歳)だからフェイスブックをこの際やめるべきか。



Jardín de flores del castillo de Kakegawa.

Haiku "¿Cuál es la casa donde vive un enano? Tulipanes"

掛川城花園

俳句「こびと棲む館(やかた)はどれぞチューリップ」秀嘉

[目次へ](#)

## 1 困碁川柳

- 1) 気を付けろ、困碁気を付けろとざる碁言う。
- 2) 鼻唄に、屁までこかれ碁負かされ。
- 3) 碁無念を、お察ししますは余計なり。
- 4) 気合よく、打った手が命とり。
- 5) 封じ手を、打ったところで目が覚めた。
- 6) ざる碁見る、思いで無能総理みる。

## 2 困碁熟語

- 1) 散々誤碁
- 2) 碁理霧中
- 3) 偶然絶碁（牧野にも此の意味は分かりません）
- 4) 碁視眈眈

## 3 困碁謎掛け

嵌め手と掛けて何と解く、肥溜めと解く、其の心は嵌ると大変です。

## 4 ヘボ俳句

- 1) 秩父路の桜の園の花吹雪。
- 2) 秩父路の桜吹雪の道を往く。
- 3) 満月に鏡の如き棚田かな。
- 4) 軽やかに芒が揺れて空晴れる
- 5) 往く春の雲を突き抜く槍ヶ岳。
- 6) むく鳥かツツツと畑走る鳥。

収穫して、地肌剥きだしの百坪程の畑に 10 数羽の小鳥が居て、ツツツと走っては何かを啄ばみ、又ツツツと走っては何かを啄ばんでいました。

- 7) 足もとにこっちも見てとすみれ草。
- 8) 平然と悠々泳ぐ矢鴨かな。

既に数年経過していますが、皆様も御存じの事でしょう。首に矢が刺さったまま泳いでいた鴨が居ました。酷い事をする奴が居るものと腹が立ちました。其れを思い出しました。

- 9) 里芋の、葉がもてあそぶ水の玉。
- 10) 花一つ、付けぬ我が家の庭の梅。

11) 江戸川の土手は菜の花ばかりかな。

あの菜の花も外来種ばかりだそうです。人類に限らず、先住民は弱いのですかねえ。

12) 炎天下ミミズの引越し命懸け。

コンクリートの上で、干物になっているのを見る事があります。

私には、侘びとか寂びとか風流とか、美的感覚などは薬にする程も持ち合わせてないと自負しておりますが、ひよんな事から囲碁川柳を作る様になりました。囲碁川柳なら幾らでも作れます。

ついでに俳句が出来ないかと思いやってみました。そして作った俳句を、私行き付けの碁会所、千葉県松戸市にあるGO-NET囲碁サロンへ持って行って、皆さんの目に留まる様に置いておきました。3年程以前の事です。其の頃、GO-NET囲碁サロンに来だした山里さんと云うお婆さん、と言っても私より可なり年下でしょう。お婆さんと言うのは失礼ですかねえ。

山里さんは碁はヘボですが、俳句は本格的にやっている人です。其の山里さんは「牧野さんの俳句は、ちゃんと俳句になっている」と言ってくれました。是は嬉しかったですね。

私は誰にも俳句を習った事はありません。全くの我流です。私に俳句が作れるのは、自分でも驚いています。私の俳句は其の場の思い付きを書きとめて置くだけですが、趣味が一つ増えました。とは言っても本格的にやる程の時間はありません。

私は不動産屋ですが、もう余り仕事はやっていません。然し忙しい。

やりたい事が山程ある。私の趣味は碁将棋に読書、碁は碁会所八段ですがもっと上達したいし、読みたい本が山程ある。将棋にまではとても手が回りません。放送大学で勉強したい面白い学問も色々あります。其れに書きたい文書も一杯あるし、書かなければならない文書ある。

今の私は何よりも時間が欲しい。

今から勉強しても、何の役にも立たないだろうけれど、歴史や考古学、ブラックホールなんか面白いですねえ。

「老いて学ばば、即ち死して朽ちん」と言った江戸時代の学者が居るそうですが、この意味御存じの方、どうぞ御教示下さい。

私は、趣味の他に、運動をしています。私は糖尿病です。糖尿病に対する運動療法の意味が強いのですが、そうでなくても、生きている限りヨロ爺にはなりたくない。其れで、私の乗物は原則ママチャリです。急ぐ時とか雨降りとか、止むを得ない時以外は何十キロでもママチャリで行きます。エレベータやエスカレーターにも一切乗りません。

其の他、芋を作ったり畑仕事もやっています。ですから時間が幾らあっても足りません。

私は糖尿病歴32年を経過しましたが、まだ合併症は出ていません。私は「もう年と思った時がもう年だ」と思っています。もう年と思った時から、急速に衰えるのではないかと思っていますので、そう思わなければ良いのだと思います。

私は前記の様にやりたい事が山程ありますから、まだヨロ爺になる訳にはいきません。

[目次へ](#)

## 19・20年度活動記録

- 2019.4.5 東京囲碁例会 池袋「石心」(以降同会場)
- 2019.4.21 第13回定期総会 国民宿舎つくばね  
新代表理事に杉目正尚氏を、新理事に西原口晃、野々垣悦宏、  
奥村佐二郎氏を選任
- 2019.4.21～22 囲碁大会 国民宿舎つくばね  
前チリ囲碁連盟会長 カール・シュローテル氏歓迎会
- 2019.5.3 東京囲碁例会
- 2019.6.1～5 第40回世界アマチュア囲碁選手権 島根県松江市  
参加選手歓迎会
- 2019.6.7 東京囲碁例会
- 2019.6.16 KGS月例会
- 2019.6.19 SIIG役員会 池袋東京芸劇 役員分担決定
- 2019.6.25 新役員体制 HPリニューアル
- 2019.7.5 東京囲碁例会
- 2019.7.21 KGS月例会
- 2019.8.15～24 第15回KGSネット囲碁大会
- 2019.9.6. 東京囲碁例会
- 2019.9.15 KGS月例会
- 2019.9.15 チリ囲碁連盟理事 フランシスコ・ゴンザレス氏来日歓迎
- 2019.9.18 SIIG役員会 秋葉原「ルノアール」 チリ・ペルー訪問日程確認
- 2019.10.4 東京囲碁例会
- 2019.10.20 KGS月例会
- 2019.10.25～28 韓国金寅国手杯参加
- 2019.11.1 東京囲碁例会
- 2019.11.17 KGS月例会
- 2019.12.6 東京囲碁例会
- 2019.12.8～9 つくばね忘年碁会
- 2019.12.15 東京女子大囲碁部懇親碁会
- 2019.12.15 KGS月例碁会
- 2020.1.10 東京囲碁例会
- 2020.1.16～25 第16回KGSネット大会
- 2020.2.16 KGS月例会およびアルゼンチン交流試合

新型コロナ・ウイルスの世界的蔓延により4月7日、政府「緊急事態宣言」発令。以降断続的発令により、移動制限、オリンピック延期措置など。SIIGは活動自粛や縮小など。

2020.4.19	KGS ネット月例会
2020.5.6	SIIG 役員会（オンライン会議） スペイン訪問交流中止決定
2020.5.19	KGS チリ囲碁連盟との親善試合
2020.6.15	第14回定期総会（オンライン会議） コロナ・ウイルス収束まで海外訪問等交流中止を決定、 北海道十勝合宿大会（9月12日～14日）開催決定
2020.6.21	KGS ネット月例会
2020.7.9	臨時ネット役員会にて、名誉顧問として関西棋院所属 村岡茂行九段を決定
2020.7.19	KGS ネット月例会
2020.7.25	北海道十勝大会中止決定
2020.8.13～22	第17回 KGS ネット大会
2020年8月	改訂リーフレットの印刷・配布
2020.9.16	SIIG 役員会（オンライン会議） 東京例会は新宿囲碁センターを予約済み、コロナ収束後に再開とする 年会報『一碁一会』は事務局が作成し、HPにアップすることを決定
2020.9.20	KGS ネット月例会
2020.10.18	KGS ネット月例会
2020.10.22	杉目会長日本棋院を訪問し、小林理事長と面会 所蔵の加藤正夫名人(当時)の書〈至誠〉寄贈
2020.11.15	KGS ネット月例会
2020.11.23	KGS メキシコとの親善試合
2020.12.16	SIIG 役員会（オンライン会議） 次年度総会等について協議。
2020.12.20	KGS ネット月例会
2021.1.14～23	第18回 KGS ネット大会
2021.3.17	SIIG 役員会（オンライン会議） 第15回定期総会について、6月20日千葉県松戸市GO-NET囲碁サロン、 引き続き松戸囲碁大会 6月20～21日と決定。役員改選の退任について、 吉田理事、川井理事（6月20日総会 後）、吉野監事を了承。
2021.5.20	ネット緊急役員会 6月20日の総会はオンライン会議に切り替え、松戸囲碁大会は中止



## NPO 法人囲碁国際交流の会 会員名簿

次ページをご参照ください。

[目次へ](#)



氏名	住所	海外交流参加年度																		加入年
		04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
進 哲美	神奈川県三浦郡葉山町			○	○	○	●			○		○		○					06	
関口 清	神奈川県横浜市											○●	○●	●					13	
譚 毅彬	神奈川県横浜市	○	○	○		○													06	
榎山俊次	神奈川県横浜市									○		○		○					12	
高淵秀嘉	静岡県掛川市					○		○	○										08	
奥村佐二郎	大阪府交野市							○	○	○				○	○	○			09	
佐藤亜季夫	大阪府堺市					○													07	
下村まさみ	大阪市淀川区											●		○	○	○			14	
菅田浩嘉	大阪府交野市					○	●	○	○	○	○		○	○	○	○			08	
高原久美子	大阪市阿倍野区													○	○				16	
山本忠弘	大阪府東大阪市											○	○		○	○			10	
白壁 実	兵庫県川西市																		19	
武知ハルミ	兵庫県川西市									○		○				○			11	
長谷川加奈美	兵庫県川西市										○	○		○●					13	
阿部正行	鳥取県境港市																		16	
菊本慶治	鳥取県米子市					○		○		◎			○●	●					07	
大津理恵	鳥取県倉吉市															○			19	
矢野弘美	愛媛県松山市																		19	
ジェームス・D	福岡県福岡市													○					13	
橋本詞央	福岡県糸島市											○		○		○			13	
<賛助会員>																				
古矢旬	北海道札幌市																		17	
望田武	北海道札幌市																		21	
瀬川正明	茨城県石岡市																		16	
太田直也	埼玉県朝霞市											●		○					12	
秋山賢司	東京都東久留米市																		15	
佐藤郁夫	東京都府中市																		19	
浜田鴻之介	東京都江東区											○							13	
三沢まり	東京都江戸川区															○			15	
泉谷隆男	神奈川県横浜市			○	○		●	○	●	○	○								06	
浜口一生	静岡県浜松市																		20	
久保昭二	大阪府高槻市			○	○	○													06	
中井 忠	兵庫県神戸市			○	○	○	○		●	○		●							06	
門脇宏幸	鳥取県西伯郡																		16	
田中英幸	鳥取県東伯郡																		13	
三島真也	鳥取県安来市																		18	
村河直樹	鳥取県米子市																		16	

09年度 ○:コスタリカ ●:ペネズエラ

10年度 ○:メキシコ他 ●:中国

11年度 ○:アルゼンチン・チリ ●:エクアドル・ペルー

12年度 ○:ブラジル(19名) ●:キューバ(4名) ◎:中国(4名)

13年度 ○:スペイン(21名)

14年度 ○:キューバ(18名) ●:タイ(16名、総勢41名)

15年度 ○:メキシコ(14名) ●:タイ(8名、総勢39名)

16年度 ○:モンゴル(30名) ●:タイ(6名、総勢30名)

17年度 ○:キューバ(20名)

18年度 ○:極東ロシア(19名)

<2021年度の会員状況>

名誉顧問 6名 正会員 60名 賛助会員16名